

近畿ブロック会議(平成28年7月27日・和歌山県:ホテルアバローム紀の国)

参加者は約140名。和歌山県専各中世古博幸理事が開会の辞を、開催県の和歌山県を代表して、坂本順一和歌山県会長が歓迎のあいさつを述べた。次いで近畿ブロックを代表して福田益和近畿ブロック協議会会長があいさつ、小林光俊全専各連会長があいさつを述べた。

次いで仁坂吉伸和歌山県知事(代読)が来賓祝辞を述べ、来賓紹介及び山谷えり子参議院議員からの祝電披露が行われた。

引き続き、文部科学省専修学校教育振興室の白鳥綱重室長が行政報告を行った。白鳥室長は、平成28年度専修学校関係予算として「中核的専門人材養成の推進」、「専修学校版デュアル教育の推進」「専修学校の質保証・向上の推進」「専修学校生への経済的支援の在り方」、「奨学金事業の充実」、「専修学校留学生アシスト事業」等について概要を解説した。特に自己評価・学校関係者評価の充実による質保証・向上は社会への説明責任であると改めて述べ、積極的な情報提供・公開を求めた。また選挙権年齢の引き下げにも触れ、主権者教育に関する実施状況の調査結果から前向きな取組みを期待する旨が述べられた。

全専各連事務局からは、全専各連の今年度の運動方針を述べるとともに、新たな高等教育機関創設に向けて中央教育審議会答申をもとに、これまでの職業教育体系を再整備し社会的な魅力、評価の向上を得られる仕組み作りの重要性を述べた。あわせて制度設計のポイントや基準、今後の見通しについても説明。最後にTCE財団が行う各種事業への積極的参画についての要請を行った。

休憩を挟み、「職業実践専門課程」の認定校による事例発表として、学校法人トラベルジャーナル学園増本靖氏から、認定制度による教育の質向上に寄与した事例や今後の課題について発表が行われた。その後、事例発表を受け白鳥室長が再度登壇し、職業実践専門課程の認定効果から教職員の意識と指導力・学生の実践力の向上について、申請様式を含めた認定要件ごとの留意事項の徹底、今年度の実施要項の変更点についての説明を行った。その後、赤池誠章参議院議員が駆けつけ、専修学校各種学校の振興に力を尽くしていくと決意を述べた。次に留学生委員会による提案として和歌山外国語専門学校坂本順一氏から日本語学校の現状と専門学校の連携について、留学生を取り巻く実情と日本語学校の教育について説明。日本語学校を正しく理解した上で専修学校に学生を受け入れてもらい、高度な職業人を送り出して欲しいとして報告がなされた。

最後に次期開催県として兵庫県の丸山博久会長があいさつ、閉会の辞を和歌山県専各笹岡恵一理事、その後懇親会となり、全ての日程を終了した。